

2025年「次世代航空技術」の未来像

水素燃料航空機での欧州初飛行を目指す航空会社

毎月業界のトピックをご紹介する事を企図してお送りしている本書ですが、11月は「水素燃料航空機」についてご紹介します。12月はお休みさせて頂き次回は来年1月の配信です。

■ 航空機産業「脱炭素化」の流れ

国際航空運送協会（IATA）は、**2037年の世界の航空旅客数は2018年比で倍増し、82億人に達する**としており、何も対策を講じなければ、**航空機のCO2排出量も倍増する**事になります。こうした背景から、**国際民間航空機関（ICAO）**は、国際航空分野の脱炭素化目標として「**2050年迄のカーボンニュートラル^{※1}**」を採択しました。

■ 「脱炭素化」実現の為の航空技術

航空業界の脱炭素化実現には、次世代航空技術である航空機の電動化、複合材料による軽量化及び**持続可能な航空燃料の開発・普及**が重要な鍵となります。特に、CO2排出量ゼロの「**水素燃料航空機**」は、気候変動の改善の観点からも注目を集めております。



■ 水素燃料航空機「ATR72-UH2」

UH2社は、**水素燃料電池**の供給や水素燃料製造拠点から空港までの輸送供給網の提供等をワンストップで行う米国の会社で、**2023年には同社の液体水素モジュール及び燃料電池電気推進システムを搭載した航空機によるテスト・フライトに成功**しています。同システムを**ATR 72型リージョナル旅客機**に搭載する為の修理・改造に必要な**米連邦航空局（FAA）の追加型式証明（STC）**も申請済みで、実用化に向けて着実に前進している状態です。

■ 水素燃料航空機と仏国の航空会社

欧州の『不可欠路線』を運航する弊社取引先は、UH2社から、前記水素燃料航空機「ATR72-UH2」を運航する為に必要な**修理・改造キットを3機分発注済み**で、**2026年迄には欧州航空安全機関（EASA）の認証の元、当該「ATR72-UH2」での欧州初飛行を実現**する予定です。仏国政府が「**2035年ゼロエミッション航空機**」の実現を掲げている事から、航空機の脱炭素化分野でリーディングカンパニーとなる事を目指しております。

弊社は、同航空会社の今後の進展に注目しつつ、今後訪れる航空技術革新を踏まえながら、投資家様にご安心頂ける優良案件の組成を継続して参る所存でございます。ご関心をお持ちいただけましたら、是非一度ご連絡頂ければ幸いです。

※1：2015年の「パリ協定」に基づき、2050年迄に温室効果ガス排出量を実質的にゼロ化する事。「ネットゼロ」とも呼ぶ。